

ホタルの学校

美濃加茂市立三和小学校



三和小学校のホタル保護活動



三和小学校は、ホタルの保護活動に力を入れています。今年度で44年目になります。毎年、ホタルの幼虫をホタル研究室で飼育して川浦川に放流しています。6月にホタルが舞う頃には飛翔観察をして、飛翔数を調べています。

また、ホタルがたくさん舞うようにと、川浦川や甘屋川の清掃活動を行って、環境保護の活動にも取り組んでいます。

平成22年2月には、これまでの取組の成果が認められ、「岐阜県ふるさと教育賞推進賞」をいただきました。以後、「岐阜県ふるさと教育賞優秀賞」を複数回受賞するなど、三和小の伝統の一つを守り続けています。

ホタルを迎える会・春の幼虫放流



4月末、川そうじの後、今まで大切に育ててきた幼虫を放流します。「早く成虫になってぼくたちのところに帰って来てね。」「きれいな光を見せてね。」などと語りかけながら、研究室で冬越しをした幼虫たちをそっと川へ放ちます。

飛翔観察



6月の上旬から中旬、飛翔観察をします。3年生以上が保護者、職員とともに夜、「数取器」を手に、川浦川、甘屋川の5つの観測地点でホタルの飛翔数をカウントします。同時に、観光客に児童自らがデザインしたうちわを配布し、環境美化と次年度以降の来訪を呼び掛けています。

川そうじ



ホタルがきれいな川で乱舞できるようにと願いを込め、川そうじを行います。源氏ホタルを守る会や地域の方々と一緒になって川のゴミを拾います。(川そうじは、春のホタルを迎える会、秋のホタルを送る会に合わせて行います。)

カワゲラウォッチング



川の水質を調べるために、3、4年生がカワゲラウォッチングを毎年7月上旬に行います。川の一区画にいる生き物や、川の汚染状況をみます。子どもたちは真剣なまなざしで川の中を見つめ、生き物を見つけ出します。その生き物が何であるかを分類し、記録していきます。

親ホタルの捕獲・産卵の準備



産卵及び幼虫飼育のために、親ホタルを捕獲します。雌のホタルと雄のホタルは光り方が違うことから見分けることができます。ミズゴケをしきつめた産卵箱に雄5、雌1の割合で入れます。ミズゴケを霧吹きで常に湿らせて世話をします。

幼虫の飼育活動



孵化した幼虫を水盤に移し、ホタル委員会を中心とした当番で飼育します。糞や食べたカワニナの殻を取り除き、川の新しい水に入れ替えます。孵化したばかりの幼虫はとても小さいので見落とさないよう細心の注意をはらって、数も記録します。餌のカワニナとりも欠かせません。幼虫は体のサイズに見合ったサイズのカワニナしか食べないので、いろんなサイズのカワニナが必要になります。

ホタルを送る会・幼虫放流



学校で「ホタルを送る会」を行った後、各地区に分かれて幼虫の放流をします。研究室で大切に育てて大きくなった幼虫に、春と同様に声をかけて放流します。